自転車の組み立て方/クイックリファレンス

VFC-001

●このたびは当社の自転車をお買い上げいただき、誠に有難うございます。本書は大切に保管して頂き、必要に応じてご覧ください。

1．組み立てに必要な工具

付属工具

- ①6mm六角レンチ（ハンドル用）
- ②15mm スパナ（ペダル用）

必要工具

- ③カッターもしくはニッパー（荷ほどき用）
- ④ 8mm スパナ（カゴ取付用）
- ⑤プラスドライバー（カゴ・ベル・リフレクター取付用）

2．本体および付属品のチェック

自転車本体を箱から取り出して頂き、梱包材を取り除き、本体に損傷や変形がないかチェックしてください。
※付属品が足りない場合や、本体に損傷や変形があった場合はご連絡ください。

付属品　・ペダル R(右用) × 1・後輪用ハブキャップ× 2・前カゴ（上部取付用ネジ×2、ワッシャー×2、ナット×2・底部取付用ネジ×2、ワッシャー×2、底面プレート×1）・6mm六角レンチ × 1 ・スパナ 15mm × 1 ・取扱説明書 × 1

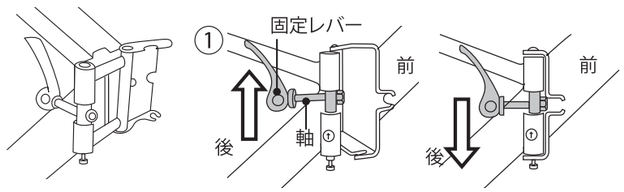
3. フレームの組み立て

使用工具：カッターもしくはニッパーなど

車輪とハンドルは、自転車本体にインシュロックで固定されておりますので、カッター等でインシュロックを外してください。

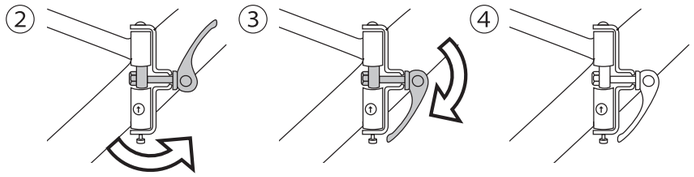
折りたたみ自転車は、まずフレームの組み立てから行ってください。フレーム組み立て後、サイドスタンドを立てると自立します。
折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。

※ギヤ側真横からフレームを見た図



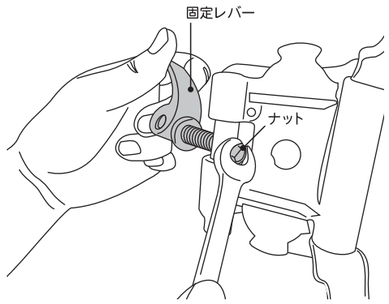
●折りたたまれた状態

①レバーを軸ごと引き上げながら車体を伸ばします。正しくセットされるとレバー(軸)が下がり、フレームがロックされます。



②固定レバーを向かって右側に回転させます。
③固定レバーを下方向に回転させ、しっかりと固定させます。

●組立完了の状態



折りたたみレバーが固い、またはゆるすぎるとき

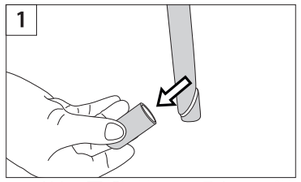
レバーの固さが適正でないと、走行中にゆるんだり外れる可能性があり大変危険です。レバーの固さは、ナットで調整することができます。調整がとれない。緩くなりすぎるような場合はサポートセンターまでご連絡ください。

レバー稼働部に潤滑性の油を差すことで、動きがスムーズになり、強度も増します。(潤滑油は商品に付属していません。)

4. ハンドルの取り付け

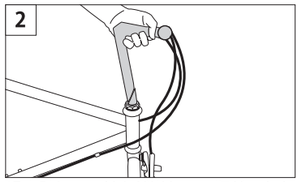
使用工具：①6mm六角レンチ（ハンドル用）

1



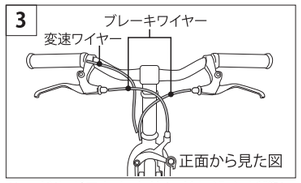
ハンドルの下部に付いているキャップ等は取り外してください。

2



組立時にハンドルが当たって傷がつかないようにハンドルを仮止めします。

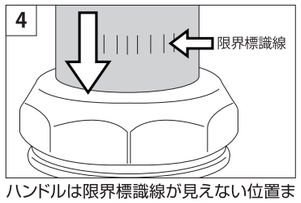
3



ハンドルポストを本体に差し込んだ際に右ブレーキワイヤーが左ブレーキワイヤーの前に来るように差し込んでください。

※差し込んだ時にワイヤーのねじれが無いようにご注意ください。

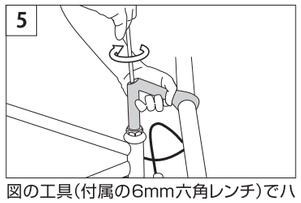
4



ハンドルは限界標識線が見えない位置まで差し込んでください。

注意　ハンドルポストの限界線は、差込口のラインを超えないように注意してください。

5



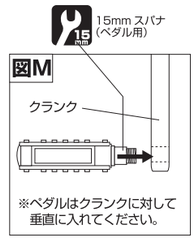
図の工具(付属の6mm六角レンチ)でハンドルを仮止めしてください。※ハンドルの形状はイラストと違う場合があります。

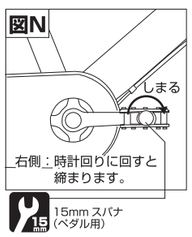
5．ペダルの取り付け

使用工具：15mm スパナ（ペダル用）

注意　ペダルはクランクに対して垂直に入れてください。（図M）

●ペダルの刻印を確認の上、左右間違えないようにしてください、必ず手でクランクに対して仮止めを行ってください。

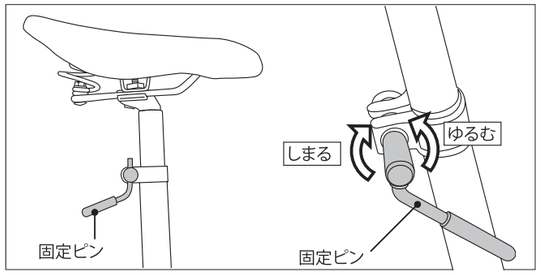




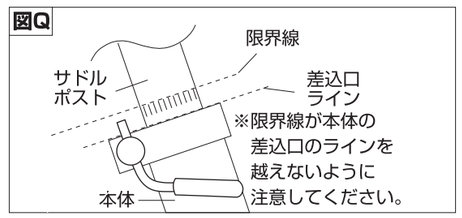
注意　ペダル取付時は必ず、初めに手で回せる限りねじ込み、最後にスパナを使用して本締めを行ってください。
ペダルが斜めに穴に入ったまま、力を加えるとクランクが破損する可能性がある為、ご注意ください。
※ペダルを本締めした際にバリが出る事がありますので、バリが出た場合はニッパー等でバリを取り除いてください。

●ペダルの仮止めが終わりましたら、付属の15mmのスパナを使って本締めを行ってください。(締付トルク40±5N･m)
※本締めを行う際は左のブレーキレバー（後輪ブレーキ）を握った状態で行ってください。

6．サドルの調整



シート固定ピンを左回り(反時計回り)に回してください。
サドルの高さを調整し、シート固定ピンを右回り(時計回り)に回して固定してください。



注意　サドルの高さを調整する際には、サドルポストの限界線が差込口のラインを超えないように注意してください。（図Q）

7．前カゴの取り付け

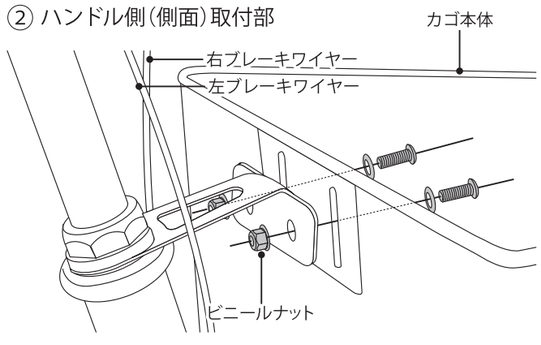
使用工具：プラスドライバー、8mmスパナ

① 付属部品の確認

はじめに付属品を確認してください。
カゴはハンドル側(側面)を下側(底面)の2箇所で取り付ける構造になっています。

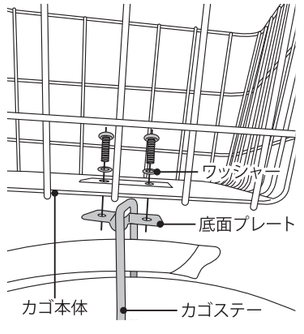
ハンドル側(側面)の取付部品(②)	下側(底面)の取付部品(③)
ネジ ×2　ワッシャー ×2　ナット ×2	ネジ ×2　ワッシャー ×2　底面プレート ×1

② ハンドル側(側面)取付部



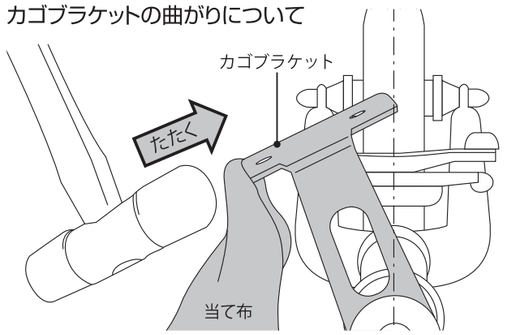
ネジをワッシャーに通し、カゴ側面部の穴に内側から差込みます。
カゴブラケットの穴にネジを通し、ビニールナットで締め付けますがこの際、ビニールナットを指で仮止めしてください。
取り付け前に各ワイヤー類の取り回しをご確認ください。

③ 下側(底面)取付部



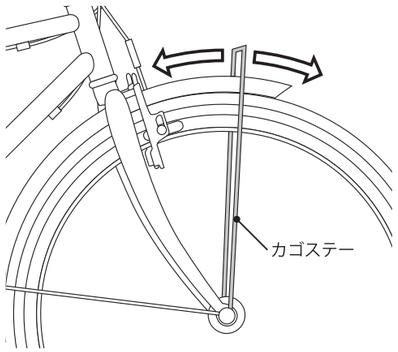
ネジをワッシャーに通し、カゴ底面部の穴にネジを内側から差し込み仮止めします。
カゴステーがある車種は、カゴステーを底面プレートで挟み込みます。)
ハンドル側(側面部)、下側(底部)ともに仮止めをしてから、本締めします。
ハンドル側(側面部)、下側(底部)のネジを交互に締めていくことがコツとなります。
片方だけを完全に締めてしまうともう片方のネジが十分に締め付けられないことがありますので両方のネジを均等に締め付けてください。

カゴブラケットの曲がりについて



運送中の振動等で、カゴブラケットが曲がっている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますので曲がっているときは傷がつかないよう当て布をあててハンマー等で叩いて位置を調整してください。

カゴステーの曲がりについて



運送中の振動等で、カゴステーの位置がずれている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますのでずれているときは手で力を加えて前後位置を調整してください。
※カゴを取り付けない時はカゴステーは必ず取り外してください。

⚠注意	カゴを取り付ける際、ブレーキワイヤー等が無理なくクロスしているか必ず確認してください。ワイヤーに不自然な絡まり等があると、誤作動の原因となります。 **ビニールナットは、「ゆるみ止め防止」のため、穴の部分にナイロンの樹脂が混入しています。これはカゴが簡単に外れないようにするための仕様となります。取り付けの際はナットを同梱のペダルレンチの小さい方の穴側で固定するか、ペンチのような工具でナットを固定したうえで、ネジが供回りしないようにして、ナットの中ににある樹脂を潰すようにして、取り付けてください。** 乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。 ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。 **※カゴを取り付けない時はカゴステーは必ず取りはずしてください。**

8. 各部の点検

●最後に組み上げた部分を点検します。
以下の点検項目のチェックを行ってください。

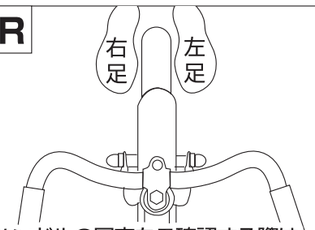
①ハンドルを左右の方向に動かした際に、緩みやガタがないか。

②ハンドルを上下に方向に動かした際に、緩みやガタはないか。

※ハンドルの固定確認は、自転車の前輪側に立ち、両足で前輪を挟んでチェックしてください。(図R)

③サドルを手で持って、左右に動かした時に動かないか。

図R



※ハンドルの固定をご確認する際は、図のようにタイヤを両足で挟み、タイヤが動かない状態でご確認ください。

⚠注意	乗車する際には毎回、固定レバーが確実にロックされているか確認してください。 ハンドルの向きに気をつけて、ブレーキワイヤー(変速機能があれば変速ワイヤーも含む)がハンドルの前側になるようにハンドルを差し込んでください。ワイヤーが絡んだり、巻きついている場合は、ハンドルを回転させたり、ハンドルを抜いて正常な状態になるように差し直してください。

※項目8の乗車前の確認は、自転車整備士有資格者が行ってください。

※ご乗車になる前には、変速機およびブレーキの調整が必要です。
(総合組立説明書の各項目をご参照ください)

組立・調整動画がご覧いただけます。